

この度、創立 60 周年を迎えられ、誠におめでとうございます。

本、筑波大学附属大塚特別支援学校では、長年に渡ってカリキュラム研究に取り組み、幼児・児童・生徒に「何を」「いつ」教えるのかという「経験内容表」と、それを領域ごとに「どのように」教えるのかを示した「指導計画集」を編成して来られました。その後、特殊教育が特別支援教育となり、特別支援学校となって、実態差の著しい多様な子どもに対して、将来の自立と社会参加に向けた指導・支援が求められております。本校も革新された特別支援教育の進展を目指し、特別支援教育の先駆的研究校として、系統的に幼・小・中学部・高等部の教育内容を配列し、未来を描くカリキュラムとなる「人間関係」領域を中核とした「学習内容表」と大塚モデル「指導計画集」を開発し、それを活用した幼稚部から高等部にかけての一貫性・系統性のある授業づくりに取り組まれました。

私は、大学教員定年までの 4 年間に、兼任として、当時創立 50 周年を迎える本校の校長を務めさせていただきました。そこで、本校がこれまでに積み重ねてきた成果をもとに一層の発展と飛躍を果たすことを念頭に、本校の校長として、少しでも学校力の素晴らしさが高まり広がるように努めたいと思っておりました。

そして、本校を中心とした「超早期段階における知的・重複・発達障害児に対する先駆的な教育研究モデル事業」が認められ、校長の任期間で取り組むことになりました。本校ではこれに関する取り組みとして、特別支援教育コーディネーターと幼稚部によって地域の幼稚園や保育所との連携支援も行われており、さらには本校の幼稚部を活用し、地域に開放された子育てひろばとして「にこにこひろば」が設定され、特別支援教育対象の乳幼児や保護者に限らず、日常生活で気になる・困っていることへの即時・早期支援という家庭支援につながる具体的な支援も行っておりました。こうした取り組みによって、大学附属特別支援学校として本校の特性を活かした教育的支援を発揮し、地域の子育て支援を行うことが本校の使命であると認識されたのです。

以上の先駆的な取り組みによって、年間を通して本校の幼児・児童・生徒のみんなが毎日がんばって勉強や多くの活動に取り組んでいる姿を見ることができ、そして、さまざまな行事でみんながしっかりと成長を重ねている姿を確認することができたのです。特に深く感動したのは始業式・終業式、運動会と大塚祭であり、みんなが共にりっぱに我々教師や保護者の皆様に向かってすばらしい態度や成長姿勢を見せてくれたことです。

こうした幼児・児童・生徒に対して素晴らしくはぐくまれた成果をみることも出来たことこそ、本校の先生方やともにごんばってこられた保護者の皆さんに、深くお礼を申し上げます。

本校の幼児・児童・生徒の皆さんも、さらなる成長を目指して、仲間との出会いや多くの豊かな学びの機会を大切にがんばっていきましょう。

そして、いよいよ創立 60 周年を迎える本校です。是非とも先駆的付属特別支援学校として更なるチャレンジをお願いいたします。

今後ともますます素晴らしい特別支援学校力の役割とその特別支援教育の成果を発揮し、発展させられますことを期待しております。

上越教育大学名誉教授

藤原 義博